

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1
四国医療専門学校 作業療法学科内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

作業療法により well-being を

医療法人社団和風会 橋本病院 瀬瀬 功

作業療法士（以下OT）は人々に作業療法を提供している。作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を目指すとして定義されている。作業療法の対象者は、生活する人であり、できればICFで考えていきたい。そのためMTDLPを使えば、おのずとICFに当てはめて考えていくことができる。

健康状態、個人因子、環境因子、心身機能・身体構造、活動、参加に分けて整理することはとても大切である。障害というマイナス面だけではなく、生活機能というプラスの側面から健康状態を包括的に捉えることが重要である。作業療法を計画し、実行、モニタリングするPDCAサイクルを継続していくことで対象者がwell-beingとなる方向性を見通しながら臨床を行っていく。

そのような過程を大事に、OTが対象者に説明を行い同意を得ることで、作業療法に取り組んでいただけるのである。しかし、同意が得られそうもない方も中にはおられると思います。その場合でも、ご家族の方のご意見を踏まえて、OTはニーズから目標を計画し、その目標に向かって作業療法を実施していくことには変わりはないわけです。

私は、対象者の「well-being」を求めていくOTでありたいと思っている。そのためには、対象者の過去、現在、将来を想い、生活する人として人生物語を考えていきたい。作業療法の見える化により、わかりやすさも意識している。MTDLPは教育的な視点からも有効である。だから、臨床場面、新人・後輩指導、学生指導においてMTDLPを活用していただければと思う。作業療法で何が提供できるのかを日々考えながら、well-beingに向かっていくことを大切に作業療法に向き合っていきたいと思う。



先輩の声

No.50 医療法人以和貴会いわき病院シルバーデイケアきらく

山田 啓介
(8年目)



私は、医療法人社団以和貴会いわき病院併設の認知症デイケアきらくに勤務しています。利用者様について、日々の業務内容等覚える事で大変だった1年目から早8年が経ちました。利用者様の大半は80歳以上の認知症高齢者です。その利用者様に対し、身体機能や認知機能、精神機能面に対するリハビリテーションを行う事はもちろん大切な事ですが、私は楽しんでデイケア活動に参加してもらう事、出来るだけコミュニケーションをとる事を特に大切にしています。

新型コロナウイルスの影響により当デイケアでも多くの制限がある中、感染予防に努めながらも楽しい生活を送れるように職員が場を盛り上げ、集団活動以外の時間には将棋やトランプ、手工芸等の余暇活動を個別に提供しています。

利用者様にあった生活、リハビリテーションを提供するため、その知識や技術を身につけるためには、職場の先輩方からのアドバイスの他に、学会発表や症例発表等何か1つでも挑戦してみる事が大切だと思います。僕自身も何度か学会発表や健康長寿講座の講師をさせて頂き、達成感以上に多くの事を学びました。これらの経験から、普段は中々聞く事の出来ない他病院の先生方の意見も聞け、その後の利用者様との関わり方にも繋がりました。僕自身もまだまだ未熟で反省をする事も多々ありますが、多くの利用者様が今の生活を継続しながら楽しい生活を送れるよう支援できるよう、感じ考え前進していきます。



No.51 まるがめ医療センター

浅野 由希

(13年目)



いつの間にか年数が経ち、焦ることもなくただ自分のやりたいことをしているOTです。作業療法士として仕事をさせてもらいながら、1年目からずーっと考えていること、それが「作業療法って何？」

私は最初の就職は小児リハがしたいと、まるがめ医療センターで常勤就職して、4年ほど前から非常勤の働き方をしています。現在はまるがめ医療センター（外来小児リハ）、福祉（保育所等訪問支援）や訪問リハ、行政からの委託事業、保育園の非常勤などの仕事をさせていただいています。すべてにおいて共通しているのは、お子さんの育ちのサポートをすることです。ここ何年か地域で仕事を始めてから、自分の中の「作業療法」について整理出来はじめたような気がします。もう10年経ったらもっと面白いことが考えられていると思います。

浅野はなぜそんな働き方をしているのか？一言じゃ語りきれないので、気になる人はまた機会があれば声をかけて下さいね。

色々な方面から、仕事をして考えるのは、「作業療法士」を説明できるか、また必要と感じているのは作業療法を体験してもらうことができるか。別に作業療法士じゃなくても出来る仕事も多いですが（名称独占業務なので）、作業療法士が作業療法に基づいた思考プロセスで、効果的なアプローチが出来ることを説明できて、効果を感じてもらえるか。

作業療法士として仕事を遂行し、作業療法で効果を出したことが証明できるスキルが問われる仕事だと感じています。

形式張った言葉ではなく、どんな人にでも作業療法を伝える事、実感してもらうことができるか？そこが大切だと思います。

抽象的な言葉で曖昧な事をして毎日過ぎ去り、なんとなく出来た気になる…きっとそれでもいいのかも知れないが、個人的には自分がしている仕事が説明できない、そんな無責任な大人になってはいけないと思うので…

私にとって作業療法はとても便利な枠組みと捉えています。よく分からない曖昧な枠組みに聞こえる定義は、自分で明確にすることができ、幅がある分、おおらかに自分の考えも当てはまるのです。

何のために仕事をするか？ → 自分の人生が豊かになるためです。

なぜフリーランスのOTが増えてこないのか？ → 守ってもらえる制度がしっかりしていないからだと感じています。

せっかく県士会費を8000円払っているの、しっかり元が取れるように活用すればいいと思います。活用しにくいと感じるなら、それを伝える必要があると思います。

仕事として出会う人の「生活の質」を考えると、私の「仕事の質」が求められる、じゃあもっと柔軟に学び知識を深め、広い視点で物事を捉えられるそんな作業療法士になりたいのだろうな…まあ今は「この人なんかええやん〜」関わる子どもにそう感じてもらえたら100点だと思って日々精進しています。

コロナ感染を経験して

私は50代の男性です。令和3年5月6日に新型コロナウイルスに感染し、中等症と診断され1週間入院しました。その当時はデルタ株が主流で肺炎になりやすく、私もなりました。当日の朝は、ゴールデンウィークでもあり、病院も当番院しか開いていませんでした。

そこの発熱外来へ受診し、受付後自家用車の中で約2時間待機していました。

抗原検査を受け陽性判定になり、PCR検査も行い、コロナ感染が確定し、その時点で既に両肺とも肺炎になっていました。当番院が総合病院だったのでそのまま緊急入院になりましたが、保健所の指示で中等症患者専門の病院へ移ることになりました。その時は自力で運転して向かいました。

1週間入院し、コロナウイルスは減少し感染拡大の恐れがなくなりました。病院の方は満床になりつつあったので、肺炎の症状が落ち着かないままに退院することとなってしまいました。入院により体力が落ちたこと、コロナウイルスに感染したという事実で精神的不安も抱えたまま退院することはかなり辛かったです。

会社も保健所も、当時コロナ感染は2週間待機だったため、少しは時間があったので自分で体力を戻す努力をしました。ですが、仕事に復帰してもなかなか元通りの身体には戻らずに現在に至っています。

当時はコロナウイルスの事があまり理解されていなかったこともありますが、患者側は未知の病気に罹り、気力も体力も奪われた状態での退院となってしまう不安で仕方ありません。ですがその後のケアは国も保健所も病院にも、特には行ってもらえませんでした。もし退院後の生活や身体のことなど、何かサポートがあれば、患者の不安も軽減されるのにな、と思いました。医療従事者の方々には大きな負担になるとは思いますが、患者側の様々な不安もご理解して頂ければと思います。

No.26

病院紹介

介護老人保健施設鮎の里



藤川 歩美

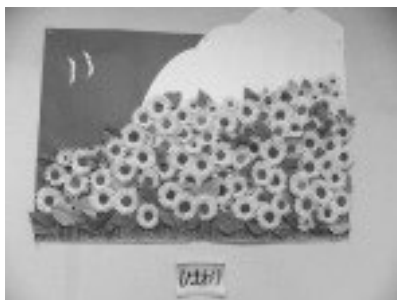
高松市香川町にある当施設は、周囲を山や田畑に囲まれた自然豊かな場所に建っています。現在、理学療法士 2名、作業療法士 5名が勤務しており、多職種との連携を図りながら入所施設・通所リハビリ・訪問リハビリの業務に携わらせて頂いています。

入所施設では、身体機能・精神機能・ADLの向上を図り在宅復帰することを目標に、集中的なリハビリを提供しています。そして、家庭や家屋状況などから在宅復帰が難しい場合には、その利用者様にとってより良い環境で過ごして頂けるように、心身機能や意向に沿ったリハビリを行っています。また、現在は感染症流行拡大のため、ご家族様との面会制限や慰問など外部の方との交流が行えない状況が続いています。不安やストレスを感じている利用者様も多くいらっしゃるため、職員が協力イベントやレクリエーションなどを行い、精神面のケアにも配慮しています。

通所リハビリにおいては、在宅での生活を豊かに安心して継続できるように、家屋状況や生活スタイルを踏まえたリハビリを提供しています。また、リハビリ主体での会議を開催するようになり約1年半となりますが、利用者様、ご家族様、他事業所の方々からも協力して頂き情報共有することで、課題の早期発見・対応へと繋がっています。

訪問リハビリでは、利用者様の生活環境・状態を見ながら、時にはご家族様と一緒にリハビリに取り組んでいます。慣れた施設での環境とは異なるため苦戦することも多くありますが、利用者様やご家族様と、より密に関係を築くことができていると感じています。

入所施設・通所リハビリ・訪問リハビリの異なる環境で業務に携われることは、日々学べることが多くあり、利用者様一人ひとりに寄り添ったリハビリが提供できるように、これからも自己研鑽に励みたいと思います。



会員各位

令和4年8月吉日

(一社)香川県作業療法士会
会長 松本 嘉次郎
学術部長 纈 纈 功
(公 印 略)

令和4年度第2回学術研修会について (ご案内)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より(一社)香川県作業療法士会の活動につきましては、格別のご理解とご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、このたび令和4年度第2回学術研修会を下記の通り開催する運びとなりました。コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンライン形態での開催とさせていただきます。

今回の研修会では、地域の高齢者の健康増進、生活の質向上のため作業療法理論をどう実践していけば良いのかを学び、また、少子高齢化の現在や未来に向けて、作業療法の進むべき道を考えるきっかけになると思います。ご多忙中とは存じますが、多数の研修会へのご参加をお願い致します。

敬具

記

- 【日 時】 令和4年10月23日(日) 10:00~12:00
【研修形態】 オンライン研修会 (Zoomを活用したリアルタイム配信)
【テ ー マ】 「高齢者の生活を明るく活力あるものにするために ~人、作業、環境への支援~」
【講 師】 藪脇 健司 先生 (東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科 教授)
【参加費】 香川県作業療法士会会員 : 500円
非会員 : 8,000円
他県士会会員、他職種、一般 : 1,000円
学 生 : 無料
【定 員】 50名 (先着順) 以上

【申込み方法】

* 今回の研修会では、Pass Market (パスマーケット) によるお申込みとなります。
(参加費も、クレジットカード、PayPay、コンビニ決済にてお支払い可能となっております。)

* 下記のURLまたは、右のQRコードにてお申込みください。
(Yahoo! IDをお持ちでない場合でも、チケット選択画面で「ログインしないで申し込む」をクリックすることでお申し込み可能ですが、クレジットのみの支払いとなります。)



<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/O20wfh8i07f21.html>

* 上記の方法が不可の場合、お問合せ先までご連絡ください。

* ZoomのIDや研修会資料などについては、10月17日頃に申込時に入力されたメールへ連絡させていただきます。

締め切り:令和4年10月6日(木) 18:00まで

【キャンセルについて】

- ①キャンセルを希望される場合は、下記のお問合せ先担当者まで直接ご連絡ください。
- ②キャンセル時の返金は、クレジットカード決済、PayPayの場合のみ返金可能です。
コンビニ決済の場合のキャンセルによる返金できませんのでご注意ください。
- ③連絡なくキャンセルされた場合、返金不可となりますので、ご了承ください。

【生涯教育ポイントについて】

- ・ JAOT (日本作業療法士協会) 生涯教育ポイント対象研修会となっております。
- ・ 会員情報、研修会受講の確認後に、後日、会員ポータルサイトにて付与されます。

《問い合わせ先》

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ
作業療法学科教務 馬場 広志

TEL : (087) 815 - 3300

E-mail : kot_gakujutsu@yahoo.co.jp

(メール優先でお願いいたします)

令和4年度 香川県作業療法士会 第2回学術研修会

高齢者の生活を 明るく活力あるものにするために ～人、作業、環境への支援～

【講師紹介】

東北福祉大学 健康科学部
リハビリテーション学科 教授
藪脇 健司 先生
(認定作業療法士・認知症予防専門士)



■ご略歴（近年のみ）

2020年4月～現在	東北福祉大学 教授
2015年4月～2020年3月	吉備国際大学 教授
2013年4月～現在	日本臨床作業療法学会 理事

■書籍等出版物

- ・高齢者のその人らしさを捉える作業療法
ー大切な作業の実現（文光堂）
- ・地域リハビリテーション学 第2版（羊土社）
- ・図解作業療法技術ガイド 第4版（文光堂）

など



第1回

学術研修会を終えて

開催報告

第1回学術研修会担当 学術部副部長 西山脳神経外科病院 鶴窪 良樹

令和4年度第1回学術研修会を令和4年6月19日(日)に開催しました。理学療法士である奥埜博之先生(摂南総合病院)と坂本隆徳先生(福山記念病院)をお招きして「作業療法士のための下肢運動器疾患の観察ポイント～運動学的・解剖学的視点、認知神経リハビリテーションの視点～」というテーマで講義して頂きました。今年度もオンラインでの開催でしたが、他職種も含め53名の参加がありました。

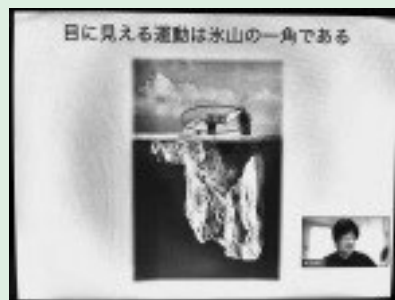
当日の講演では奥埜先生から、まず認知神経リハビリテーションの概念について話して頂きました。行為の改善には運動学的視点のみでは不十分であり、結果(運動)に対して介入するのではなくその行為のプロセスに対して思考し介入していかねばならないと話されていました。個人的には「逆上がりが出来ない子供に対して、上腕二頭筋の筋力トレーニングを実施しませんよね?でも高齢者を見ると何故かそんな思考をしてしまう方が多いです」という問いかけが印象的でした。運動(筋収縮)には情報が必要だということ、それは感覚入力が必要なのではなく、予測と結果の比較照合により、生まれた差異が行為を改変させている為、運動の理解には内部観察を行うこと、セラピストが思考していくことが重要だと述べられていました。受講される方の中には初めて聞く方も多かったと思いますが、新たな視点を持てる講義だったと思います。

坂本先生からは具体的大腿骨疾患、圧迫骨折の運動学的視点と、ADL動作時のポイントについて詳しく解説して頂きました。模型を使用し、人工骨頭の脱臼のメカニズムや基本動作の動画を用いて指導方法のポイントをわかりやすく丁寧に講義して頂きました。最後に奥埜先生より、実際の患者様で大腿骨頸部骨折の早期介入をどのように行っているか臨床場面を見せていただき、貴重な体験をさせていただきました。研修会では初となるグループディスカッションも短時間ではありましたが意見交換が行えたと思います。

終了後の出席者のアンケートでは「訓練動画からも知覚、運動、痛みへの対応などいろんな視点があり、今後の臨床で生かしていきたいと思います」「脱臼するメカニズムを解剖、運動学を復習してADLでの動作方法を細かく教えていただきわかりやすく、すぐに実践できそうです」や「普段整形外科疾患の方へのアプローチの知識が不十分であり、悩むことが多かったのでいろいろな知識を知ることができて、大変勉強になりました。臨床の中での視点も詳しく説明して頂き、とても分かりやすかったです」「今回、関節包や靭帯への着目点、実際の動画を用いた介入や声掛け方法を知ることが出来、明日からの臨床に活かしていきたいと思います」「講師の先生方が大変フランクな方で、チャットでも質問がしやすく感じました。正直、質問には抵抗を感じてしまう部分がありますが、その場で疑問を解決できたので大変良かったです」など、講義内容や講師の先生方に対して良好な意見が聞かれました。来年度も同様のテーマで引き続き、講師の先生方をお願いしたい、という意見も聞かれました。

今回お忙しい中、お引き受けいただきました講師の奥埜先生、坂本先生及び学術部担当委員の皆様、ご参加頂いた参加者の皆様ありがとうございました。

今後も会員の皆様の知識技術に繋がる研修会を企画・運営したいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。



New!

リレーエッセイ13

西村 卓也
(高松平和病院)松原 賢固
(櫻村病院)西木 学
(ライトハートいきいき荘)

私は回復期病棟、特別養護老人ホームでの勤務を経て、この4月から介護老人保健施設で勤務しています。仕事場も住んでいた家も変わり、新しい生活に少しずつ慣れてきたかなと思います。

施設では通所と入所の方のリハビリを担当させて頂いています。通所のリハビリは初めてで、まだまだ分からないこともたくさんありますが、先輩方に教えて頂きながら日々業務に取り組んでいます。通所の利用者様とは毎日会える訳ではないので、体調の変化やご自宅での様子などより多くの情報を聞き出すため、積極的にコミュニケーションを取ることを心がけています。

プライベートでは、最近はコロナの影響により以前ほど旅行に行くことが減ったかわりに、県内で美味しいご飯が食べられるお店を探して食べに行くことが増えました。香川はうどん以外にもまだまだ美味しい食べ物がたくさんあることを知れたきっかけになったと考えています。

なかなか終わりの見えないコロナウイルスとの生活の中で、行動制限など規制は少しずつ緩和されてきていますが、医療や介護の現場に携わる方は自分が感染してはいけないというプレッシャーでリフレッシュ出来ていない方も多いと思います。基本的な感染対策を徹底しつつ、自分の体と心の体調管理のために適度にリフレッシュしながら頑張っていきましょう！



皆様のご参加楽しみにお待ちしております！

令和4年度 MTDLP研修の お知らせ



生活行為向上マネジメントのシンボルマーク

人は作業をすることで元気になれる

なぜMTDLPを学ぶの？

- 心身機能や活動と参加の一側面だけ理解するのではなく、個人因子・環境因子までを踏まえた総合的に捉える包括の視点を身につけよう！
- 過去・現在・将来まで一貫して「連続している生活」を理解し、支援する包括的アプローチの視点を身につけよう！
- 個人の活動から地域の社会資源の活用まで幅広くとらえる包括の視点を身につけよう！

基礎研修会

令和4年10月16日(日)
 時間：全日
 場所：ZOOM
 ※問い合わせ：教育部

書き方研修会

令和4年10月28日(金)
 時間：19時～21時
 場所：ZOOM
 ※申込は後日配信

出前講座

令和4年11月25日(金)
 時間：19時～21時
 場所：ZOOM
 ※申込は後日配信

事例検討会①

令和5年1月25日(水)
 時間：19時～21時
 場所：ZOOM
 ※申込は後日配信

事例検討会②

令和5年2月21日(火)
 時間：19時～21時
 場所：ZOOM
 ※申込は後日配信

LINE 友達募集中!!



MTDLP 関連の情報
発信中 (月 1 回程度)

香川県 MTDLP 委員
合計 10 名 (指導者 5 名)
 ※事例登録希望者への
 個別支援実施中!!

【お問い合わせ先】

E-mail:mtdlp.kagawa@gmail.com (担当：若林)

香川県作業療法士会 公式アカウント 開設

香川県作業療法士会では公式LINEアカウントを始めました!

公式 LINE アカウントでは、香川県作業療法士会主催の研修会や各種イベント、重要なお知らせなどリアルタイムな情報を配信していきますので、ぜひ、友だち登録をよろしくお願ひします。

登録はこちらのQRコードから



他に香川県作業療法士会のホームページからでも登録できます。



<http://kagawa-ot.or.jp/>

お問い合わせは香川県作業療法士会 事務局まで

(一社) 香川県作業療法士会 事務局
四国医療専門学校 作業療法学科内

〒769-0205 綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1

TEL **0877-41-2330**



入 会

川原 裕治 (四国こどもとおとなの医療センター)
 吉岡 麻優 (松井病院)
 中川明日佳 (おさか脳神経外科病院)
 田中 琳良 (三豊総合病院)
 穴吹 康太 (デイケアセンターますらを)
 田片 孝祈 (松井病院)
 北林紗弥佳 (まるがめ医療センター)
 山本健太郎 (屋島総合病院)
 本川 亜美 (三豊総合病院)
 伊勢野香奈 (高松市立みんなの病院)
 松本 優衣 (西山脳神経外科病院)
 村上美沙希 (西山脳神経外科病院)
 岩田 歩実 (西山脳神経外科病院)
 松本 尚士 (児童発達支援センター きりん教室など)
 船本 綾花 (こころの医療センター 五色台)
 川原 あみ (三豊市立みとよ市民病院)
 川上 真依 (松井病院)
 辺見佳壽子 (高松刑務所)
 浦山 策聖 (松井病院)
 古志 嶺奈 (橋本病院)
 森田愛々花 (橋本病院)
 児玉 諒太 (しおかぜ病院)
 森高 颯太 (しおかぜ病院)
 田中 樹 (マオカ病院)
 阿部 美月 (創心会訪問看護リハビリステーション高松中央)
 三谷 祐太 (森川整形外科病院)

退 会

竹内 厚子 (自宅)
 森藤 拓也 (橋本病院)
 石原 麻衣 (総合病院 回生病院)
 山地 康生 (せとうち福祉サービス)
 真鍋 奈菜 (松井病院)
 溝渕 唯 (高松平和病院)

異 動

佐藤 恒輔 (総合病院回生病院)
 ▶看護小規模多機能型居宅介護 然
 西村 卓也 (高松平和病院)
 ▶高松協同病院
 西木 学 (特別養護老人ホーム あづき)
 ▶介護老人保健施設 いきいき荘
 鎌田 友美 (デイケアおさか)
 ▶三野福祉会 みの荘
 豊岡 佑馬 (田村クリニック)
 ▶三豊市立みとよ市民病院
 仁尾 敬子 (阪本病院)
 ▶綾田内科・消化器科デイケア
 中村 昌子 (自宅)
 ▶きずかな・こどもの発達支援教室ブレインジャパン合同会社
 白石 真央 (おさか脳神経外科)
 ▶訪問看護ステーションなごみ
 和泉 泰平 (三豊市立西香川病院)
 ▶赤沢病院
 井上 寛之 (介護老人保健施設 悠々荘)
 ▶介護付有料老人ホーム ましま
 柳萬 裕美 (榎村病院)
 ▶かしむら病院デイケアセンター
 吉田 俊二 (キナシ大林病院)
 ▶訪問看護ステーション Re・Home

■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.84 ■

編集長 木村勇介 (滝宮総合病院)

編集委員 細谷かぐや (吉峰病院) 塩田未紅・安藤瑞基・大林美紀・田片孝祈 (松井病院) 村上太気 (いわき病院)
 宇佐川雄太 (まるがめ医療センター)